



## 会員寄稿

### 「捨てられない」

図書研修課長 菊池 薫

年度末にふさわしく、整理の話をしてみようと思います。

昨年本当に久しぶりに引っ越しをしました。その時に一番困ったのが、長年住んでいたのに、ため込んでいたものが多すぎて、一向に片付かないことでした。簡単に考えれば、必要のないものは捨てて、必要なものだけを荷造りすればいいのですが、これがとてもとても難しく、まあ、捨てられないのです。例えば「紙袋」です。私は世の中の人間は手に入った紙袋はすべて取っておくものだと思って疑わなかったのです。だから、引っ越しを手伝ってくれた弟が、心底不思議そうに「なんでこんなに紙袋があるのか」と言うので、「普通そうでしょ」と強く言い返してしまいました。後から、ネットで検索入力してみると、「紙袋 捨てられない」の次に「女」というサジェストが出てきたので、紙袋をため込むのは女性に多いのかもしれないかもしれません。実際、誰かにちょっとしたものをあげる時など、そこそこきれいな紙袋があると、とても便利です。しかし、一番きれいで丈夫な紙袋は、ここぞという特別な時に使おう、と取っておいて、いつまでも使わないのです。他のものより価値があると認めているからこそ、使わずためこんで困った存在になっている、というなんだか矛盾した存在になっていることに改めて気づきました。そして、世の中の「捨てられない」問題の多くは、こんな感じになっているのではないかと考えました。

ネットでも、断捨離の際に、一番厄介なのは「『魅力的で価値がある』」と思って手に入れて、現在でも魅力的であると思っけているけれども、『何の役目も果たしていない』もの」だとありました。そういうものは、「それほど魅力的なのにも関わらず、何の役目も果たせていない、ものすごい無能なもの」なので、早く手放しなさい、とあって、当たり前のことですが、とても納得し、ぜひ心に留めておこうと思いました。紙袋は三分の一に減らしました。

無事に引っ越しは終わりましたが、私の部屋の整理が終わるのはまだ先のような感じです。しかし、ものが減ってすっきりしたというだけでも、明らかに住み心地がよくなりました。普段からコツコツと整理をしておくことが大切だと痛感しています。4月から新しい年度が始まります。一人暮らしを始める卒業生たちも、進級する在学生たちも、ぜひ住み心地のよい部屋で充実した新生活を送って欲しいなと思います。

最後に、図書館の蔵書を紹介します。

『中高生のための「かたづけ」の本』 杉田明子・佐藤剛史著 (岩波ジュニア新書)

何がどこにあるかわからない、いつもモノ探しから始まる・・・そんな毎日をなんとかしたいあなたへ贈るかたづけ力アップのための一冊。すべて出す→分ける→選ぶ→収める、の四段階からまずは始めよう！ 練習を積み重ねたある日、かたづけ力だけでなく、よりよく生きる知恵と力を身につけている自分にも気がつくはずですよ。